北から南から

1,500人が参加したアイデア満載の震災避難訓練と団地のサブ避難所化構想

神奈川県相模原市南区新磯野４丁目
相武台グリーンパーク　災害対策合同委員会　竹内　一三

はじめに、団地を紹介します。

“相武台グリーンパーク”と称し、昭和54年建設の５階建て中層集合住宅40棟と店舗で、1,612世帯、現在約4,000人が住んでいます。【写真１】

【写真１】相武台グリーンパーク全景

入居時から防災は自治会連合会が担い、団地内の広場で「防火と防災」を兼ねた訓練をする程度で、毎回の参加者は100人位です。

私は、平成24年に自治会連合会会長となり、防火・防災訓練を指揮する立場になって、次のことから、当時の防災マニュアルと訓練では大地震に対処出来ないと考えたのです。

・住民の一時避難場所（小学校校庭）で訓練を行った実績がなく、ここに4,000人が集ったら収集がつかない。又、大地震や震災を想定した訓練を行ったことがない

このことから、管理組合へ防災を「住民の生命・財産を守る」として一緒に考えませんかと提案し、平成26年１月「相武台グリーンパーク災害対策合同委員会」を設立しました。

1 防災マニュアルと震災避難訓練について

委員会で、従来の一時避難場所を団地内の７か所【図１】に分散することを決め、マニュアルに次のような内容を加え、『防災マニュアル（住民編）』として一新しました。

・地震発生から一時避難場所への避難要領
・「防災セット」【写真２】とその使い方
　※団地内161か所の集合ポストへポストを１個追加し、その中へセットを常備
・一時避難場所での行動要領
・団地で被災生活するための組織作り
・団地全体の被災生活を「自主防災隊」（避難所運営組織に相当）が統括する組織について

このマニュアルを検証するために、平成27年12月、１棟（60世帯）で試行訓練を実施。

結果をマニュアルに反映し、平成28年６月、全住民を対象に「震災避難訓練」を実施しました。この際、多くの住民を一斉に訓練するために考え出したのが、次のような方法です。

・マニュアルを要約した「震災避難訓練要領」を作り、全戸配布する
　※訓練で各自がするべき行動を時間軸で書いた物

【写真２】**防災セット**
①防災マニュアル(２種類)　②安否確認・被害カード
③メモ用紙　④鉛筆　⑤安否確認シール　⑥街区−号棟カード　⑦住民名簿　⑧収容ケース

・訓練要領に沿った「放送シナリオ」を作り、放送で行動を指示しながら訓練を進める
　※日常、団地で使っている放送設備があることから思いついた

・避難時の住民の取り纏め役（指揮官役）161 人を選任する
　※説明会を開き、訓練当日の役割を徹底する

このようなアイデアが無かったら、参加者が約 1,500 人と、過去に例のない大規模な訓練・防災啓発をすることが出来なかったと思います。

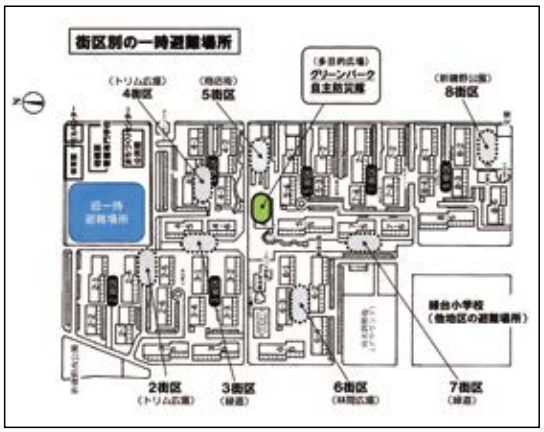
2 団地のサブ避難所化構想について

団地の住民は約 4,000 人、市指定の避難所（中学校）の収容人員は 1,290 名。このことから、団地全体を被災生活の場とする取組が必要だと思い、避難所のサブ避難所とする構想で考えたのが『防災マニュアル（自主防災隊編)』（避難所の運営マニュアルに相当）です。

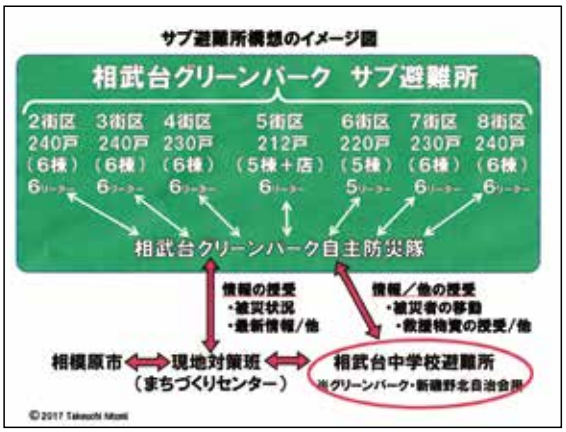
避難生活をするまとまりを棟単位と店舗の 41 に分け、各リーダーを決め、リーダーの元、住民の共助で炊出し・物資管理・衛生管理等を行う。又、これらを取りまとめる本部組織として自治会連合会役員と管理組合役員 139 名で構成する「自主防災隊」を設置し、地域・避難所と連携しながら住民の安全な生活を確保する構想です。【図２】

3 おわりに

『地震は人の力で押さえつけることは出来ませんが、震災は人の力で防ぎ止めることが出来ます』との前人の教えを、参加が無かった 2,500 人へ呼びかけ、今後の参加を促すと共に啓発して行きたいと考えています。



【図１】



【図２】